

1年生が2学期に行った社会科見学が、訪問先の「ジャパンパイルグループの社内広報」に掲載されました。ジャパンパイル様より転載の許可をいただきましたので、紹介させていただきます。

お知らせコーナー

## 山梨工場 地元中学生が社会科見学に来場



場内にて製造工程を説明（樋川工場長）



脱型直後の製品の説明（村中部長、若松生産グループリーダー）



コンクリート供試体の圧縮強度試験見学（草野副工場長）

11月4日（木）、市川三郷町立市川中学校一年生生徒30名が校外学習の一環として当社山梨工場へ見学を訪れた。郷土の産業への興味・関心を高める目的の社会科見学で、会社の選定の際は当工場で作っている製品がとても大きいことなどが興味を引き、生徒さんからの希望がなんと圧倒的な一番人気で決定したとの事。当工場としても地域貢献と地元へアピールする（保護者の方々にもアピールする）良いチャンスであり、喜んでお引き受けすることとなった。

今回初めての試みであったが当日は安全面、コロナ対策など万全の体制を整えた。ひとつ心配なのは案内メンバーが強面揃い…？でもいざ生徒さんたちの愛くるしい姿を目の当たりにすると一瞬でメンバー全員が優しい笑顔になった。生徒さんたちもリラックスした様子で、とある元気な女子生徒さんからは笑顔で「ワタシ中卒でも就職できますかー？」とストレートな発言が出るなどとても良い雰囲気での始められた。

まず広場にて「建設基礎って、何だろう？」など若者向けの絵本のパンフレットで説明し始めると皆、杭というものに興味深々となり、「地面の中の見えない部分で建物を支える事が私たちの使命」という言葉に感心してメモをとっていた。場内に入ると目の前で天井クレーンが大きな型枠を吊上げる動きや遠心機の防音カバーを開けた時の大きな音で回転する型枠の迫りに驚きの表情をみせ、最初は少し怖がっている素振りさえも見受けられたが、徐々に慣れてきて関心を持って観ているようだった。特に脱型したばかりの製品に直に触れながら「あったかーい」の声や、内面を覗き込んで製品の大きさを楽しんでいる姿が印象的だった。コンクリートの圧縮強度試験の見学では「この140Nの供試体の強さは大人のゾウ（4t）が70頭乗っても壊れません！」の説明にピンと来ない微妙な表情であったが、次第に供試体がメシメシと

音を立て始めると爆裂するんじゃないかと慌てて耳をふさぎながら、特殊な強いコンクリートであることを肌で感じているようだった。

最後の質疑では「何でこの職業を選んだんですか？」や「仕事をしていてツライこと、たいへんなことは何ですか？」など、突然聞かれると思わず戸惑ってしまうものもあったが、答えながらもふと気がつくとも我々もいまの仕事への取組姿勢などを見つめ直し、また初心を思い出させてもらう良い機会にもなっていた。

後日には生徒さんからたくさんの感謝のメッセージを頂き、無事に大成功を収めることができた。村中部長をはじめ山梨工場の皆さんお疲れ様でした。



杭打設工事の工程を動画で説明（村中部長）

（生産企画部 後藤 幸裕：記）

## 生徒さん達から頂いたメッセージをいくつかご紹介します

○日本の杭の多くがジャパンパイルの工場で作られていることを知りました。

見学させてもらって工場で働く方々はとても大変な作業をしているんだなと思いました。杭がしっかりしていないと、建物自体がしっかりしないから、目に見えるわけではないけど、かげでしっかりささえているんだなということを知りました。工場を見学させていただいたおかげで、前よりも杭に興味をもちました。見学させていただきありがとうございました。

○ジャパンパイルさんの見学をして、私の知らなかった杭の存在を知ることができました。杭を作るには時間がかかること、杭には既製コンクリート杭、鋼管杭、場所打ち杭があり、地面の硬さで杭を変え、より強く建物を支えられるようにしていることがわかりました。私たちから見えない場所で支えてくれている杭のことに興味をもつことができました。ありがとうございました。

○みんなが笑顔で、楽しそうな所だなと思いました。機械が動いている事を明るい音楽で伝えていて（※）、すごいなと思いました。建物を支える柱も大きくてびっくりしました。一つでもミスをするとなってしまうので、一人ひとりがそれを意識していて本当にすごいと思いました。私もみなさんのように自分の仕事に自信を持てるようになりたいです。

（※編集注：コンベア等の移動時に音楽を流して注意喚起する工場内のシステムのこと）



皆さんからのメッセージ